

2 全体会 主催者代表等あいさつ・来賓祝辞

San-En-Nanshin Summit 2017 in Minamishinsyu

○主催者代表あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長

浜松市長 鈴木 康友



第24回の三遠南信サミットin南信州へ多くの皆様に御参加を賜りまして、誠にありがとうございます。今回、飯田市での開催ということで、牧野飯田市長をはじめ、飯田市の関係者の皆様には大変御尽力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。また本日、国土交通省中部地方整備局の塚原局長をはじめ、関係省庁の皆様、そして、各地方公共団体の皆様、それから、経済団体の皆様、大学、市民団体の皆様、本当に多くの関係者の皆様に御列席を賜りました。心から厚く御礼を申し上げます。

回を重ねて、24回目の三遠南信サミットでございますけれども、これまでも三遠南信自動車道を中心としたインフラの整備や地域の産業振興等、様々なテーマで議論を重ねてまいりました。現在進めております連携ビジョンは、来年度計画期間が終了するということで、今回一つの区切りを迎えます。

そこで、もう一度原点であり、この連携の基本でございます「みち」に視点を当てまして、「“みち”がはぐくむ三遠南信の未来」というテーマを設定させていただきました。基調講演は、国土審議会会長として御活躍の奥野信宏先生にお話をいただきまして、その後、

トークセッション、あるいは分科会と、このサミットを進めてまいりたいと思っております。

さて、皆様御承知のとおり、日本はいよいよ人口が減っていくという人口減少時代に突入いたしました。あのセンセーショナルな増田レポートでは、これから多くの自治体が人口減少によって存続が困難になる消滅可能性都市などということをおっしゃって、リストが出た途端に大変大きな反響を呼びました。国は、これは大変だ、人口減少は地方に大きな影響を与えるということで、地方創生という大きな指針を打ち出し、総合戦略の策定を義務づけ、地方創生に乗り出したということだと思います。昨年はある意味、地方創生元年でございましたけれども、地方創生というのは、言ってみれば、それぞれの地域がそれぞれの地域の特性や資源を生かして、みずから知恵を出し、汗もかき、頑張りなさいということであり、これは厳しい現実を我々突きつけられたということだろうと思います。

もちろん、各自治体がそれぞれ頑張るということも必要ですけれども、一方で、今後は都市間の連携、あるいは地域の連携、これも大事であるということで、そうした連携の重要性についても、国は大きな方針を打ち出しているところでございます。連携中枢拠点都市構想もできましたし、あるいは様々な連携が今、行われています。この地域でも、南信州広域連合や東三河広域連合ができておまして、ある意味、時代を先取りした地域間の連携が進んでいるわけでございます。

その中で、この日本の中でも例を見ない県境を越えた三遠南信地域の連携につきましては、最近、非常に注目が集まっております。先日も経済同友会の皆様が三遠南信地域の連携についていろいろ勉強したいということで、

ヒアリングに来られたわけでございます。全国的にも、この県境を越えた連携に注目が集まっているということで、我々もこれからしっかりとこの連携を進めていかなければいけないと思います。ある意味、私どもがこれまで取り組んできた取り組みに時代が追いついてきたということかもしれないわけでございます。

先ほども申しましたように、現在のビジョンが来年度、計画期間の終了を迎えるということで、今、新しいビジョンの策定に取り組み始めております。愛知大学と共同研究でスタートしております、しっかりとした連携ビジョンのもとに、この三遠南信広域連携を進めていきたいと考えていますので、また、皆様の御支援をお願い申し上げます。

こうして三遠南信地域の連携が注目を浴びる中、新たな加盟団体を迎えることになりました。上伊那地域の4市町村の、伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村の4市町村並びに伊那商工会議所、伊那市商工会の皆様にも御加入いただくことになりました。これで総勢39の市町村、そして、51の商工会議所・商工会で構成されることとなります。全体では93団体による大変大きな連合体となります。新たなビジョン構築に向けて全力を挙げて取り組んでいくとともに、この三遠南信地域の連携を一層進化させていきたいと思っております。ぜひまた皆様の様々な形での御支援・御尽力をお願い申し上げます。

結びに当たりまして、第24回となりますこの三遠南信サミットが参加の皆様にとって有意義な会合となりますことを心から祈念申し上げます。挨拶にかえさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。ありがとうございました。

○開催地代表あいさつ

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 飯田市長 牧野 光朗



第24回三遠南信サミット2017in南信州が、本日、私どものこの南信州・飯田におきまして、三遠南信圏域の議会の皆様方、行政の関係者、そしてNPOや住民の皆様方、国土交通省中部地方整備局の塚原局長様ほか、御来賓の方々、本当にこれだけの皆様方をお迎えして三遠南信サミットが盛大に開催できますこと、まずもって御礼申し上げます。また、域外からはるばるこの飯田の地まで来ていただきました皆様方に対し、心から歓迎の意を表させていただくところでございます。ようこそ、この飯田までお越しいただきました。

さて、先ほど三遠南信地域連携ビジョン推進会議の会長を務めていただいております浜松市の鈴木市長からもお話をいただいたところでありますが、今回は24回ということですので。

三遠南信サミットは3市でそれぞれ開催させていただいており、浜松市、豊橋市、そして私ども飯田市でこのサミットをそれぞれ受け持たせていただいているわけですが、来年度からはいよいよ9巡目ということになります。

四半世紀にわたる我々のサミットの積み上げは、振り返ってみれば、大変大きなものをつくってきたと思うわけです。この間、この広域連携に対する考え方というものも深く浸透し、また、広がってきたと感じますし、それがこの三遠南信サミットのメンバーを増

やしていく原動力になってきていると思うわけです。今回も上伊那地域の北部の4市町村をお迎えする中で、私ども長野県南信州圏域からの参加者も上下伊那そろってということになりまして、私としても大変うれしく思っています。

そうした積み重ねの中で、私どもの地域におきましても、広域連合がどれだけ機能するかということを試行錯誤してきたところです。飯田下伊那地域におきましては、南信州広域連合の積み重ねをしながら、そして、東三河地域におきましては、東三河広域連合が立ち上がって、佐原広域連合長を中心に、今、非常に大きな飛躍を見せているという状況にあります。

三遠南信圏域といたしましては、いよいよ県境を越えて、さらに広域的な課題に対応することが必要になってきていると思うところでありまして、先ほど会長の浜松市長からもお話がありましたが、この流域圏における広域連携をさらに深く広く考えていくために、新たな三遠南信広域連合の枠組みをいよいよ本格的に検討し、そして、それを実現させることが必要になってきている、その姿勢を示していただいたと思っております。

このサミットにおきましては、以前から三遠南信広域連合に向けてのサミット宣言を出してまいりました。昨年度のサミット宣言では、こうしたことをしっかりと研究していく研究会も立ち上げてということを示してやってきたわけですが、今回は、そうした研究会の成果も踏まえながら、広域連携の一つの枠組みとして、それこそ人口減少、少子化、高齢化という、非常に環境の変化の激しい右肩下がりの時代において、私どもの地域のポテンシャルを最大限に引き出していくために、産業振興、あるいは治山治水、防災、環境等、様々な広域的課題に対応していくための行政の枠組みをしっかりと形づくっていくことが必要になっていると思います。

また、サミット宣言におきましてそうした枠組みをしっかりと目標として掲げながら、三遠南信サミットを積み重ねる中で、広域的な課題に対応していくために、まさに真の地方創生を実現していくために、私どもの三遠南信地域の底力を示していくことが必要な時期になっていると思うわけであります。

今回のサミットのテーマは、そうした三遠南信の原点に帰る形で「みち」がはぐくむ三遠南信の未来」となっています。私たちの三遠南信地域の未来を確かなものとして実現していくために、本日、様々な角度から議論が積み重ねられることを御祈念申し上げる次第です。

結びに、本日お集まりの皆様方が、三遠南信地域の発展のために、それぞれのお立場でさらに御尽力をいただきますよう、そして、そのための社会資本整備として、これから三遠南信自動車道、リニア中央新幹線をはじめとした公共交通網をしっかりとこの地域の中に実現させていく、その原動力となっただけを御祈念申し上げ、何より本日お越しいただきました皆様方、本当によろこそ飯田市にお越しいただきましたということを重ねて申し上げさせていただきます。私からの挨拶とさせていただきます。

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
飯田商工会議所会頭 柴田 忠昭



御紹介いただきました飯田商工会議所会頭の柴田でございます。商工会議所・商工会

及び開催地飯田を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、三遠南信地域の市町村、議会、商工会議所・商工会、さらには住民団体の皆様には、遠方より南信州・飯田の地にお越しをいただきました。心から感謝申し上げます。

また、日ごろより三遠南信地域の振興や三遠南信地域連携ビジョンの推進に格段の御高配をいただいております御来賓の皆様におかれましても心から厚く御礼を申し上げます。

本日は、多くの皆様が整備の進む三遠南信自動車道、あるいは中央自動車道を通して、この地にお見えになったかと思うわけですが、多くの方々、場合によっては初めてこの地を訪れる方もいらっしゃるかと思いますが、飯田山本インターチェンジのあたりから望むこの飯田下伊那の風景、南アルプスや中央アルプスの山々を、御覧になっていかがでしたでしょうか。この冬の景色を、「すばらしいな」とお感じになっていただけたかと思うところであります。

当地域では、今年の春、南信州の春の幕開けといたしまして、7年に1度の大祭「飯田お練りまつり」をこの飯田の地で開催いたしました。飯田市や関係の皆様のご格段の御協力をいただきまして、さらには3日間すばらしい天候にも恵まれまして、出演団体が47団体、御覧いただいた方々は延べ35万人という、過去最大のすばらしいお祭りを開催することができました。この地域で受け継がれております伝統文化を、十分に御堪能いただけたのではなかろうかと思っております。

本年はNHKの大河ドラマ「おんな城主直虎」、この舞台になっております浜松市はもとより、ゆかりの地であります南信州高森町、それから、飯田井伊家にも大変な注目が集まっております。地域資源を活用した観光による三遠南信地域の交流が実現しております。大変ありがたいことだと思っております。

さて、当地域は三遠南信自動車道とリニア

中央新幹線の二大交通プロジェクトが同時に進められております非常に希有な地域であります。三遠南信地域の北の玄関口、長野県の南の玄関口として、この二大交通プロジェクトの完成が一日も早くなることを願うところです。

リニア中央新幹線につきましては、御案内のとおり、2027年の開業を目指して、昨年11月には大鹿村で長野県内初の本体工事の着工ということになったわけです。三遠南信自動車道の整備はもとより、リニア中央新幹線長野県駅に接続する国道153号、中央自動車道座光寺パーキングエリアのスマートインターチェンジ、中央自動車道と長野県駅を結ぶ座光寺上郷道路など、交通ネットワークの整備計画につきましても、現在、着々と進められているところですので、大変ありがたいことだと思っております。この大交流時代の幕開けに向けまして、地方創生に向けた地域の特徴や強みを生かした産業づくりや人づくりが喫緊の課題であると思っております。

本日は、行政、大学関係者、住民団体、そして、商工会議所・商工会、この三遠南信地域に関わる多くの皆様にお集まりをいただいております。三遠南信地域の未来につきまして有益な議論を交わしていただければありがたいと思っております。私ども商工会議所・商工会といたしましては、「小規模事業者支援法」に基づきます経営発達支援事業などによりまして小規模事業者対策を図るとともに、行政や金融機関、大学などともさらに連携を強化し、広域的な視点に立った地域の活性化にも取り組んでいく必要があると考えております。

結びに、本日、お集まりの皆様にはすばらしい会議を持っていただきまして、この地域の発展に御尽力していただきますよう、皆様にとりまして素晴らしい1日となりますよう御祈念申し上げまして、開催地代表としての御挨拶とさせていただきます。

○来賓祝辞

■国土交通省中部地方整備局長

塚原 浩一 氏



御紹介いただきました中部地方整備局長の塚原でございます。

本日は三遠南信サミット2017in南信州ということで、御盛会、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げたいと思います。

また、ここにお越しの皆様には、三遠南信自動車道をはじめといたしまして、日ごろより、私どもの事業あるいは取り組みに多大な御理解・御支援をいただいておりますことを、改めて、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

この三遠南信地域、私も何度も伺わせていただいておりますけれども、本当に昔からの交流が非常に盛んな地域、また、文化的にも重なるところも多い地域と感じております。そういう中でこのサミットという形で、これは行政だけではなくて、産官学、地域住民の皆さんが一体となって、静岡、長野、愛知、その県域を越えて広域な連携を図って地域振興を進めようという非常に先進的かつ画期的な取り組みだと思っております。

昨年、私ども、本日基調講演をされます奥野先生に御尽力をいただきまして、中部圏の広域地方計画をまとめさせていただいたのですけれども、その中でも、まさにこの三遠南信地域の広域連携というものは、本当に先進的なモデルとするべきものであろうと位置づ

けをしております、こういったものをさらに推進していきたいと思っております。

この地域におきましては、これが20年以上も前に始まって、長きにわたって継続し、かつ活発に活動していただいて多大な成果を出していただいている、これは本当に素晴らしいことだと思います。

先ほどもお話がありましたけれども、2027年にはこの地にもリニア中央新幹線が開通するというので、関連のプロジェクトも含めて、様々な取り組みが進んでおります。

私どももそういったものをしっかりとサポートしてまいりたいと思っております。

そういう中で、この飯田の地で今回のサミットが開催されるということは、まさに時宜を得たことなのかなと私どもも思っております。道路の整備、あるいはそのリニア中央新幹線へのアクセスの整備をしっかりと進めることによりまして、物流であったり、観光振興であったり、あるいは安全・安心の確保であったり、様々な形で大きな効果が期待できると思います。私どもも一生懸命取り組んでまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いをいたします。

御案内のとおり、三遠南信自動車道につきましては、今、我々も一生懸命事業を進めているところでございまして、全長が約100キロメートルでございますけれども、約3割が開通しております。さらに、平成29年度、平成30年度、平成31年度とそれぞれ開通の見込みを出させていただいておりますけれども、それをしっかりと着実に実現させていきたいと思っておりますし、その後、一日も早く全線開通に向けて歩みを進めてまいりたいと思っております。

ただし、これにはここにおいでの皆様のごさらなる御支援・御協力は不可欠だと思っておりますので、ぜひ御支援のほど、よろしくお願いをしたいと思います。

また、私どもは道路をつくるわけですけれ

ども、道路は単に車が通るというだけではなく、まさに、ここで今、皆様に取り組んでいただいているように、その道路に皆様方のいろいろな知恵、アイデア、取り組みをしっかりと載せていただく、そういうことが非常に重要だと思っております。道路はハードウェアでありますけれども、そういった皆様のお知恵をソフトウェアとして道路に載せることによって、この地域の振興が本当に大きな効果を上げることができると思っております。

そういった意味におきまして、このようなサミットの場において有意義な議論が展開されるということは大変重要なことだと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

最後になりますけれども、この三遠南信地域のますますの御発展を祈念しまして、簡単でございますけれども、私の御挨拶にかえさせていただきます。

■ 農林水産省関東農政局次長

永嶋 善隆 氏



ただいま御紹介いただきました関東農政局次長の永嶋でございます。本日は三遠南信サミットの開催、誠にありがとうございます。また、このような素晴らしい会議にお招きをいただきまして、誠にありがとうございます。御臨席の皆様におかれましては、常日ごろから農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

この三遠南信サミットにつきましては、本年で24回目の開催と伺っております。この三遠南信地域が一体的な圏域として発展するために、県境を越えて三つの地域の皆様が一堂に会して、文化や歴史、産業振興など、多岐にわたる議論を長期の取り組みとして継続して取り組んでおられることに対しまして、改めて心より敬意を表する次第でございます。

さて、昨年11月に政府の農林水産業・地域の活力創造本部におきまして、農業競争力強化プログラムが決定されたところでございます。このプログラムにつきましては、農業者の所得の向上を図るために、農業者が自由に経営展開できるように環境整備するとともに、農業者の努力だけでは解決できないような構造的な問題をここで解決しようというものでございます。具体的には、土地改良制度の見直しや収入保険制度の新たな導入など、かなりの思い切った改革を行っていくというところでございます。この三遠南信地域につきましては、天竜川をはじめとした水資源を活用して、全国に先駆けて近代的な農業用水の整備が行われました。南信地方の米やリンゴ、ナシ、遠州地方のお茶やミカン、三河地方の野菜や花など、全国的に先駆けた取り組みがなされております。農林水産省といたしましては、これらの「強い農林水産業」を次世代に引き継いでいくためにも、農地中間管理機構による担い手への農地集積や集約化を加速させつつ、農地の大区画化、汎用化などを行い、さらには、水路のパイプライン化による省力化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や耐震化などを推進していく予定にしております。

また、政府の農林水産業・地域の活力創造本部では、あわせて「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂いたしまして、人口減少社会における農林水産業の活性化を図るために、「農泊によるインバウンド需要の取り込み」を新たな施策として推進することを決定し、全国で500地区のモデル地区を出そうと取

り組んでおります。

改めて申すまでもなく、我が国の農山漁村には日本ならではのおいしい食、農山漁村の素晴らしい景観など、訪日外国人にとって魅力的な資源が豊富に存在しております。政府では、現場で活躍する人材の確保・育成や、農泊の魅力の国内外への情報発信、さらには、受け入れ地域での農泊のビジネス化などを働きかけていくということで、これについては各省が連携して取り組むこととなっているところでございます。

この会議が行われておりますここ飯田市につきましても、全国に先駆けて体験教育旅行に取り組み、株式会社南信州観光公社によるグリーンツーリズムの取り組みは全国の模範となっております。全国の都市農村交流のモデル地域であるこの飯田市は、私も何度も足を運び、勉強させていただいているところでございます。

このように、ここ三遠南信地域につきましては、首都圏、それと中京圏にも隣接し、多くの都市住民が居住しております。子どもたちによる自然体験や農林漁業体験、また、農山漁村地域の振興に貢献したいというアクティブシニア層による「援農」などの都市農村交流の受け皿として、全国のモデルケースになるのではないかと考えている次第でございます。

また、南信地域の特産品である「市田柿」につきましては、昨年7月に「GI（地理的表示保護制度）」の登録産品として認定されました。地域に長年培われた特別な生産方法やブランド育成が評価されたものではないかと思っております。既に、この市田柿につきましては、台湾や香港への輸出も行われているということでございますけれども、地域の魅力の向上や輸出の促進など、地域の農林水産業と関連産業の発展に寄与するものとして、大いに期待しているところでございます。

今回のサミットにつきましては、「“みち”

がはぐくむ三遠南信の未来」をテーマに、三遠南信地域連携ビジョンの実現に向けて、市町村長をはじめとする関係者の皆様方が意見を交わされる場と伺っております。まさに三遠南信地域の活発な交流がこの地域の活力の強化につながっていくものではないのかなと考えております。

最後に、このサミットが実り多いものになりますよう、三遠南信地域のさらなる発展につながることを祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

■経済産業省関東経済産業局地域経済部長
三浦 裕幸 氏



本日は、三遠南信サミット2017in南信州ということで、24回目の三遠南信サミットを開催されますこと誠におめでとうございます。本来であれば、局長の藤井がこちらに参って御挨拶申し上げるべきところでございますけれども、所用がございまして、私が代理で本日参った次第でございます。日ごろより経済産業行政に御理解・御協力を賜りまして、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、経済産業省は、日本の経済の牽引役ということでありまして、先ほど、鈴木会長の御挨拶にもあったのですけれども、地方創生ということで、ようやくデフレから脱却して景気も上向いている中で、これを地方にいか浸透させて活力を取り戻していくかが課題になっているわけでございます。しかし、

国内の人口構造としては少子化、高齢化、人口減少が進んできており、そういう意味では、経済の活力が失われていく方向にあるということは、誰もが感じているところではないかと思えます。

既に皆様も新聞などいろいろなところで目にされていると思うのですが、私ども経済産業省では、インダストリー4.0という第4次産業革命がこれから始まるのではないかと、様々な観点から議論をしています。

このインダストリー4.0というのは、ポイントだけかいつまんで申し上げますと、様々なものをインターネットにつなげて、そこから得られるいろいろなデータなどを人工知能が分析をして、それで我々の暮らしや産業活動に役立てていこうというものであります。具体的な例で言いますと、今までできなかった自動運転や、あるいは遠隔医療といったものが実現されれば、地方で様々な公共交通機関が廃止されている中で、そういったサービスを新たに展開できるのではないかと期待されております。そういう意味では、今までの我々の暮らしを全く別なものに変えていく可能性があるというものであります。当省としては、第4次産業革命に的確に対応していくためのビジョンをまとめておりますが、日本だけではなく、アメリカや欧州でも同じような取組みがされており、国際的にも少しずつそういった社会を実現していく方向になっていくのではないかと考えております。

私は、この第4次産業革命は、地方において実現してこそ初めて意味があるのではないかと考えております。本日、お集まりの皆様方も、この地域の未来をどうするかという点を様々な角度から議論をされ、ビジョンを策定されていると伺っております。私どもも一緒に、そういったビジョンを実現していくお手伝いができればと考えております。

三遠南信地域は、長野県、静岡県、愛知県にまたがって連携をされています。

私は、長野県と静岡県を管轄している関東経済産業局の者でありまして、愛知県は中部経済産業局の管轄なのですが、関東経済産業局と中部経済産業局も連携しながら、広域的に支援させていただきたく決意でございます。

最後になりましたけれども、本日、鈴木会長、佐原・牧野副会長をはじめ、関係の方々の御尽力によりまして、このような盛大なサミットが開催されますことをお祝い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

■長野県建設部長 奥村 康博 氏



ただいま御紹介賜りました長野県建設部長の奥村康博でございます。本日、第24回三遠南信サミットin南信州がこのように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、皆様方には日ごろから長野県政の推進、あるいは建設部の事業推進につきまして御支援・御協力をいただいております点、厚く御礼を申し上げます。

この三遠南信地域でございますが、天竜川、豊川を活用して発達した水運や、塩の道と呼ばれる陸路を通じ海と山と交流がありまして、古くから独自の生活文化圏を形成してきたところでございます。最近では三遠南信地域連携ビジョンにおきまして、三遠南信250万流域都市圏の創造を目指し、産官学の皆様が協力・連携して地域づくりに御尽力されていることに対しまして、心から敬意を申し上げます。

本日のサミットの開催地であります三遠

南信地域でございますが、三遠南信自動車道とリニア中央新幹線という二大プロジェクトが進んでおりまして、首都圏と中京圏から長野県への南の玄関口として、さらなる発展が期待されているところでございます。本日のサミットのテーマ、「“みち”がはぐくむ三遠南信の未来」ということでございますが、三遠南信自動車道によりまして、古くから続くこの地域の連携がさらに強まるとともに、平成39年開業予定のリニア中央新幹線等との相乗効果によりまして、地域一帯に大きな発展をもたらすものと考えております。

昨年2月に新東名高速道路の浜松いなさジャンクションから豊田東ジャンクション間が開通したことによりまして、三遠南信自動車道の交通量も増加し、観光等の地域間交流人口の拡大によりまして、地域のさらなる活性化につながっております。

産業におきましても、アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区として国の指定を受けております航空宇宙産業をはじめ、三遠南信自動車道の整備によりまして、お互いの強みを生かした連携が図られ、産業振興による地方創生にもつながるものと期待しております。

この三遠南信自動車道につきましては、(仮称)龍江インターチェンジから(仮称)飯田東インターチェンジ間が平成29年度開通に向けまして、工事が進められております。さらに昨年11月には、天龍峡インターチェンジから、(仮称)龍江インターチェンジ間の約4キロメートルにつきまして、平成31年度の開通見通しと発表されました。これらによりまして、中央自動車道から、(仮称)飯田東インターチェンジ間の一連の区間約15キロメートルが通行できるようになるということでございまして、地域の期待も一段と高まっているところでございます。長野県としましては、国道152号の現道活用区間の整備に努めておりまして、一昨年に小道木バイパス、昨年12

月には和田バイパスの全区間が開通したところでございます。これによりまして、国で進められている青崩峠道路のトンネル掘削土を活用させていただく予定の小嵐バイパスを残すのみということでございます。

さらに、県の中期総合計画「しあわせ信州創造プラン」におきまして三遠南信自動車道の整備効果を地域内外の発展に結びつける取り組みが不可欠との認識のもと、引き続き、この地域の発展に向けた様々な施策を展開してまいりたいと考えております。皆様方の一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びでございますが、本日のサミットを通じまして、三遠南信地域のますますのご発展と御参集の皆様方の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、私からの御挨拶といたします。

